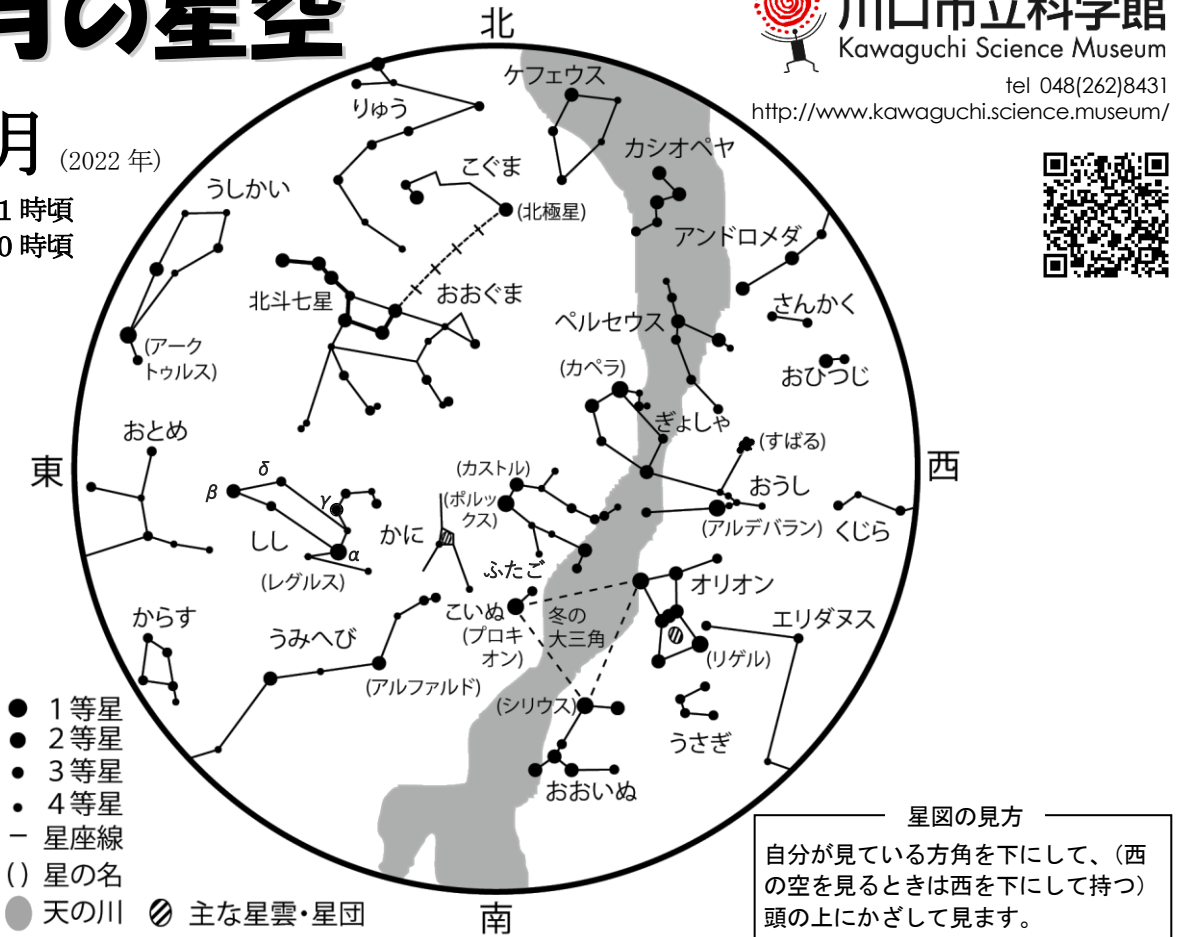


# 今月の星空

3月 (2022年)

上旬 21 時頃  
下旬 20 時頃



月 齢 ● 新月 3 日、● 上弦 10 日、○ 満月 18 日、● 下弦 25 日  
惑星情報 金星 日の出前 南東(いて→やぎ→みずがめ→やぎ座 -5→-4 等)  
火星 日の出前 南東(いて→やぎ座 1 等) 土星 日の出前 南東(やぎ座 1 等)※下旬以降

## ☆冬の終わりを告げるふたご座と春の訪れ

3 日のひなまつりの頃、お内裏様とお雛様を連想させるかのように、20 時頃の天頂付近にはふたご座のポルックス (1.2 等) とカストル (1.6 等) が並んで輝いています。西の空では、まだオリオン座などの冬の星座を見つけることができますが、このふたご座が天頂を過ぎれば、そのあとに続くのは、かに座やしし座といった春の星座たち。その他、南にはうみへび座、北にはおおぐま座を見つけられるようになります。市街地でも見つけやすいしし座は、星図のとおり、 $\alpha$  星レグルス (1.4 等) から  $\gamma$  星 (2.0 等) -  $\delta$  星 (2.6 等) -  $\beta$  星 (2.1 等) と明るい星を繋いでみましょう。また、北の空で目立つ北斗七星 (おおぐま座の一部) もおすすめです。7 つの明るい星 (2 等 6 つ、3 等 1 つ) がひしゃくの形に並びます。これから夏にかけて空の高いところに昇り、存在感が増していきます。

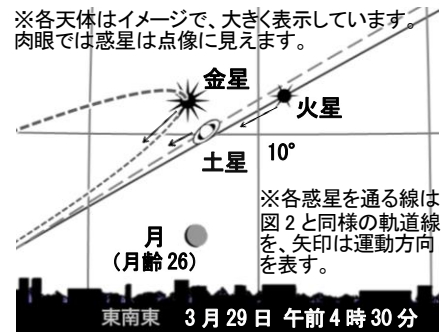


図 1 地上から見た 3/29 の惑星の位置

## ☆明け方に集う惑星たち～金星、火星、土星を見よう～

3 月下旬、夜明け前の南東の低空に、ひときわ明るい金星 (-4.4 等)、赤い色の火星 (1.1 等)、土星 (0.8 等) が集まって見えます (図 1)。惑星の位置関係は日々変わりますが、周囲には 3 等より明るい恒星もないため、明るさや色の特徴から見分けられるでしょう。

この惑星の集合は、図 2 のとおり、地球から見たときに、偶然同一方向に位置する、見かけ上の接近です。宇宙から見れば、シンプルな惑星の公転運動ですが、動いている地球から見ると惑星の位置は複雑に変化していき、しばしば見かけ上の接近も起こります。

今後はこれら 3 つの惑星に木星が加わり、5 月頃までは 4 つの惑星が集まるにぎやかな夜明け前の空となるでしょう。

※両図とも国立天文台及び StellaNavigator/  
AstroArts の画像を元に作成。

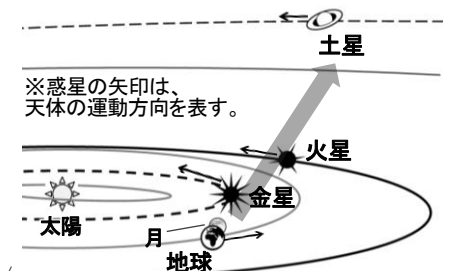


図 2 宇宙から見た 3/29 の惑星の位置